

機械創造工学科

（この点検項目は、大学基準協会から、前回の「改善報告書の検討結果」により「理工学部機械創造工学科の収容定員に対する在籍学生数の比率について、1.26と高いので改善すること」について再度報告を求められている事項である。）

以下の表は、「1. 収容定員に対する在籍学生数比率」と「2. 入学定員に対する入学学生数比率」を1999～2006年度について示したものである。

1. 収容定員に対する在籍学生数比率

（各年度とも5月1日現在）

※小数点以下第3位を切り捨て

年度	1年		2年		3年		4年		在籍者数 合計	収容定員数 合計	在籍者合計 ／収容定員数	※4年間ごとの 平均値
	在籍者数	収容定数	在籍者数	収容定数	在籍者数	収容定数	在籍者数	収容定数				
1999	142	110	133	110	122	110	152	110	549	440	1.24	1.26
2000	92	70	131	110	131	110	161	110	515	400	1.28	
2001	87	70	85	70	129	110	162	110	463	360	1.28	
2002	92	70	74	70	86	70	153	110	405	320	1.26	
2003	67	70	87	70	74	70	104	70	332	280	1.18	1.19
2004	77	70	66	70	84	70	93	70	320	280	1.14	
2005	101	70	77	70	66	70	104	70	348	280	1.24	
2006	80	70	99	70	78	70	80	70	337	280	1.20	

2. 入学定員に対する入学学生数比率

年度	入学者数	入学定員	入学者数 ／入学定員 ※	4年間ごと※ の平均値
1999	128	110	1.16	1.19
2000	85	70	1.21	
2001	83	70	1.18	
2002	85	70	1.21	
2003	65	70	0.92	1.15
2004	77	70	1.10	
2005	101	70	1.44	
2006	80	70	1.14	

2000年度に学科改組され、1999年度入学生までは機械工学科、2000年度以降の入学生は機械創造工学科所属の在籍者となっている。改組により、入学定員数が110名から70名と変更になり、最近では収

容定員数に対する在籍学生数の比率が少し減少し、改善している。

以前は、表1のとおり、収容定員数に対して25%を越える在籍学生数であった。その後2002年度以降、留年者対策として、在籍学生のなかで**修学意志のない学生や修得単位僅少者には個別面談や退学勧告等の指導**を行った他、基礎科目を中心に演習の重視や追試を行うなどして**授業内容の理解度を高め、興味を持つような授業を開講して学生の勉学意欲向上に努めた**。また、若い教員を入れることで**学科教員の若返り**を図り、**学生の受講意欲向上**も行った。カリキュラムでは1年次にいくつかの必修科目を移して**授業負担の分散**を行い、さらにいくつかの必修科目を選択必修科目にして**科目の選択肢を与えることで勉学意欲を向上させ、留年の可能性を抑制した**。こうした努力の結果、2003年度以降の4年間収容定員数に対する在籍学生数の比率は1.19倍となっている。2005年度の一般入試において入学辞退者の割合が例年より大きく減少し、結果として入学定員を大幅に上まわる学生数を受け入れることとなったが、2006年度は1.14倍となっており、2003年度以降は比較的低いレベルに抑えられているといえる。各大学の入試制度が毎年のように変わっている現状においては、単独の学科で入学辞退者の割合を正確に予測することは困難である。収容定員を確保しつつ、本学部全体として在籍学生数の適正化を図る方法を検討すべきである。

また、本学科の退学者は、2002年度に8名、2003年度に2名、2004年度に6名、2005年度に6名と低いレベルに抑えられている。